ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬　高血圧フォーミュラリ

推奨	第一選択薬	第二選択薬	オプション		
薬品名	**アムロジピンOD錠 2.5mg、5mg**	**ニフェジピンCR錠20mg**	ベニジピン塩酸塩錠4mg	シルニジピン錠5mg	アゼルニジピン錠16mg
薬価	10.8/錠（10.8～21.6/日）	9.1/錠（9.1～36.4/日）	10.8/錠（5.4～21.6/日）	10.8/錠（10.8～43.2/日）	10.8/錠（5.4～10.8/日）
用法用量	1日1回2.5～5mg 最高10mg	1日1回20～40mg（1日10～20mgで開始） 最高1回40mg1日2回	1日1回2～4mg 最高8mg 〈重症の場合〉1日1回4～8mg	1日1回5～10mg 最高20mg 〈重症の場合〉1日1回10～20mg	1日1回8～16mg（1回8mgあるいはさらに低用量で開始） 最高16mg
その他適応症	狭心症	腎実質性高血圧症、腎血管性高血圧症 狭心症、異型狭心症	腎実質性高血圧症 狭心症		
禁忌	ジヒドロピリジン系化合物に対し過敏症の既往歴のある患者	心原性ショックの患者	心原性ショックの患者 妊娠または妊娠の可能性のある女性	妊娠または妊娠の可能性のある女性	妊娠または妊娠の可能性のある女性 アゾール系抗真菌薬、HIVプロテアーゼ阻害剤、クラリスロマイシン等を投与中の患者
特徴、注意点など	・L型 ・半減期、作用持続時間が長く、効果発現が緩徐 ・副作用が少ない ・6歳以上の小児適応あり ・口腔内崩壊錠 ・反射性交感神経刺激作用がなく、反射性頻脈を起こしにくい	・L型 ・ニフェジピンの24時間作用型 ・適応症が多い ・徐放錠のため粉砕・簡易懸濁不可（同成分のセパミットR細粒：12時間作用型は簡易懸濁可）	・L、T、N型 ・反射性頻脈少なく、腎保護作用あり ・血中半減期は短いが、長い降圧効果	・L、N型 ・心拍数増加の抑制 ・腎保護作用あり ・浮腫になりにくい	・L、T型 ・反射性頻脈少なく、腎保護作用あり ・併用禁忌薬が多い（例：アゾール系抗真菌薬、クラリスロマイシンなど）

換算表（ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬・高血圧治療）

一般名	代表的な商品名	用量		
アムロジピン	ノルバスク、アムロジン	2.5mg	5mg	10mg
ニフェジピン（徐放/CR）	アダラートCR	—	20mg	40mg
シルニジピン	アテレック	5mg	10mg	20mg
アゼルニジピン	カルブロック	8mg	16mg	
ニトレンジピン※	バイロテンシン	5mg	10mg	—
ニルバジピン	ニバジール	4mg	8mg	—
バルニジピン※	ヒポカ	5mg	10mg	—
フェロジピン※	スプレンジール	5mg	10mg	20mg
マニジピン※	カルスロット	5mg	10mg	20mg
ニカルジピン（徐放/LA）※	ペルジピンLA	40mg	80mg	—
ベニジピン	コニール	2mg	4mg	8mg
エホニジピン※	ランデル	20mg	40mg	—

※当院未採用薬
比較換算表は目安であり、効果には個人差があります

監修：循環器内科　添田　恒有
作成：薬剤部 医薬品情報管理　吉岡　美奈子
参考文献：添付文書、インタビューフォーム、
今日の治療薬、高血圧管理・治療ガイドライン2025
2026年10月